デジモンアドベンチャー０３～紋章の解放者～

月牙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
デジモンアドベンチャー０３～紋章の解放者～

【Ｎコード】
Ｎ８２４１Ｑ

【作者名】
月牙

【あらすじ】
２００２年、大輔達選ばれし子供達とそのパートナーデジモン達の活躍でデジタルワールドは救われた。
・・・しかし、突然リアルワールドとデジタルワールドに暗黒のゲートが多数開いた。再び大輔達は世界を救おうとするが敵の策略によって、選ばれし子供達はバラバラに封印されてしまった。
その時、四聖獣とその長ファンロンモンによって選ばれた志賀（しが）　健（けん）二が彼らを救うために立ち上がる！

Ｐｒｏｌｏｇｕｅ（ＰＡＲＴ１）（前書き）

初めまして月牙といいます。ダメダメな作者ですが、一生懸命頑張っていくのでよろしくお願いします！
あとちょっとしたことでもいいので感想ください。

Prologue（PART1）

２００３年、全世界の選ばれし子供達とそのパートナーデジモン達が協力してベリアルウ゛アンデモンを倒した最終決戦から3年後・・・

〜???〜

???「クフフ・・・いよいよだ、この暗黒の世界に閉じ込められし暗黒デジモン達よ！今こそ、デジタルワールドとリアルワールドを支配するのだ！」

暗黒デジモン達「オオォォ！！」

〜リアルワールド〜

光司郎「さてと、作業を開始しよ・・・これは！？大変だ、みんなに知らせないと！」

〜デジタルワールド〜

ライドラモン「ここも異常なしだな。」

大輔「ベリアルウ゛アンデモンを倒してから、すっかり平和だな。」

ライドラモン「あぁ、だが油断は禁物だ。」

大輔「そうだな、さてと、みんなに連絡するか。」

大輔はDターミナルを取出した。

大輔「あ、光司郎さんからメールが来た。・・なんだって！？」

ライドラモン「何かあったのか？」

大輔「デジタルワールドとリアルワールドに暗黒のゲートがあっちこっちに開いたらしい！リアルワールドは太一さん達に任せて、俺達はデジタルワールドをまもるぞ！」

ライドラモン「よし、飛ばすからしっかりつかまっていてくれ！」

するとライドラモンは目にも留まら速さで疾走した。

～リアルワールド～

デビモン「ダークネスクロウ！」

女の子「いやぁぁぁ！」

トゲモン「チクチクボンバー！」

デビモン「ぐはぁ！？現れたか選ばれし子供達め！」

ミミ「あなた、大丈夫！？」

女の子「・・・うん。」

トゲモン「ミミ、早くその子を！」

ミミ「えぇ、あなたこっちよ。」

デビモン「まて、ダークネスクロウ！」

トゲモン「しまった！ミミ～！」

バードラモン「メテオウィング！」

デビモン「グハァー！？」

デビモンは空から降ってきた火球をくらって消滅した。

空「ミミちゃん、大丈夫！？」

ミミ「空さん、バードラモン！？」

スナイモン「今だ！シャドウ・シックル！」

カブテリモン「メガブラスター！」

スナイモン「グギャーー！？」

カブテリモン「わてらもおりまっせ！」

ミミ・空「カブテリモン、光司郎君！」

光司郎「光が丘に急ぎましょう！そこに大きな暗黒のゲートが開いてます！」

ミミ「でもデジタルワールドは！？」

光司郎「デジタルワールドは大輔君達に任せましょう！」

空「バードラモン、お願い！」

バードラモン「でも、なんでいまさら暗黒のゲートが！？」

トゲモン「以前、光が丘のゲートはブラックウォーグレイモンが命と引き換えに封印したはずなのに。」

カブテリモン「とにかくいってみんことには・・・」

バケモン「見つけたぞ！選ばれし子供達だ！」

イビルモン「キヒヒヒ、こんなとこにいたのか」

デビドラモン「捕まえろ！」

光司郎「数が多すぎる！カブテリモン達だけじゃ・・・・。」

ガルルモン「諦めるな！フォックスファイヤー！」

バケモン「グギャーー！？」

ヤマト「俺達は諦めなかったからこそ、これまで強敵達と闘って来れたんだ！」

空「ヤマト、ガルルモン！」

デビドラモン「おのれぇ～～！許さん！」

太一「ゆるせねぇのはお前達だ！」

グレイモン「メガフレイム！」

光司郎「太一さん、グレイモン！」

イビルモン「これはやばい！」

丈「イッカクモン、にがすな！」

イッカクモン「任せろ！ハープンバルカン！」

イビルモン「イヤーー！？」

ミミ「丈さん、イッカクモン！」

丈「待たせたね。」

太一「じゃあ、全員揃った所で、行くか！」

全員「うぉー！！」

～？？？～

？？？「ククク・・・すべて予想通りだ。デジタルワールドの方もそろそろか。」

Ｐｒｏｌｏｇｕｅ（ＰＡＲＴ２）（前書き）

またも、主人公を登場させられず、しかもＰｒｏｌｏｇｕｅが次回まで続いてしまってすいません？
次回はいよいよ主人公が登場しますので乞うご期待！

Prologue（PART2）

～デジタルワールド～

ペガスモン「タケル、敵はかなり多いぞ。」

タケル「うん、近くの茂みに隠れて、みんなと合流してから攻撃を仕掛けよう。」

ペガスモン「わかった。あそこの茂みに隠れよう。」

ペガスモンは茂みに隠れた後、パタモンに退化した。

タケル「あとは、みんなが来るのを待って・・・」

エレキモン「誰か助けて～！」

ファントモンA「誰も助けねぇよ！ヒハハハ！」

エレキモン「こうなったら、スパーキングサンダー！」

ファントモンB「ギャアアア！・・・な～んてな効かないんだよ！」

ファントモンC「観念しろ！ソウル・・・」

パタモン「タケル！」

タケル「うん、エレキモンを助けるんだ！」

パタモン「待てー！」

ファントモンD「なんだ！？」

パタモン「パタモン、進化！」

エンジェモン「エンジェモン！」

ファントモンA「現れたな、選ばれし子供とそのパートナーデジモンめ！」

エンジェモン「エレキモン、今のうちに逃げるんだ！」

エレキモン「あ、ありがとう！」

そういうとエレキモンは素早く走り去った。

エンジェモン「貴様達の相手は私だ！」

ファントモンB「たかが二人でこの軍勢に勝てると思っているのか？」

大輔「二人だけじゃないぜ！」

ライドラモン「その通りだぜ！ブルーサンダー！」

ファントモンC・D「グギャーー！？」

タケル「大輔君、ライドラモン！」

大輔「待たせたな、タケル！」

ライドラモン「俺達だけじゃないぜ。」

ファントモンB「これ以上邪魔はさせん！ソウルチョッパー！」
アクイラモン「ブラストレーザー！」

ネフェルティモン「カースオブクイーン！」
ファントモンのソウルチョッパーはアクイラモンのブラストレーザーとネフェルティモンのカースオブクイーンに打ち消された。

タケル「ヒカリちゃん、ネフェルティモン！」

エンジェモン「それに、京にアクイラモンまで！」

ヒカリ「タケル君、大丈夫！？」

ネフェルティモン「私達が揃ったら敵わない敵はいない！」

アクイラモン「ネフェルティモンの言う通りです！」

タケル「でもまだ、一乗寺君と伊織君がまだ・・・」

京「大丈夫、大丈夫あの子達なら・・・」

ファントモン「「「「「隙ありだ！ソウルチョッパー！」」」」」

アクイラモン「ぐあああ！？？」

京「アクイラモン！？きゃあああああ！？」

アクイラモンはファントモンのソウルチョッパーをくらい、体勢を崩して京を落としてしまった。

アクイラモン「京さん！！」

落ちていく京・・・その時、突然緑色の物体が受け止めた。

一乗寺「大丈夫ですか、京さん？」

京「賢君・・・！？それに、スティングモン！？」

スティングモン「間一髪だったな。」

京「あ、ありがとう。」

ファントモンＡ「こうなったら人間の方をねらえ！」

ディグモン「そうはいかないギャ！ゴールドラッシュ！」

突然、地面から幾つものドリルが現れファントモンに襲い掛かった。

エンジェモン「ディグモン！」

タケル「伊織君！」

伊織「皆さん、お待たせしてすみません。」

大輔「皆がそろったところで、ジョグレスだ！」

全員「ＯＫ！！」

すると、ライドラモン、ネフェルティモン、ディグモンはブイモン、テイルモン、アルマジモンに退化した。

ブイモン「ブイモン、進化！」

アルマジモン「アルマジモン、進化！」

エクスブイモン「エクスブイモン！」

アンキロモン「アンキロモン！」

大輔「一乗寺、いくぞ！」

一乗寺「いいぞ、本宮！」

エクスブイモン「エクスブイモン！」

スティング「スティングモン！」

エクスブイモン・スティングモン「ジョグレス進化！」

パイルドラモン「パイルドラモン！」

京「いくわよ、ヒカリちゃん！」

ヒカリ「はい、京さん！」

アクイラモン「アクイラモン！」

テイルモン「テイルモン！」

アクイラモン・テイルモン「ジョグレス進化！」

シルフィーモン「シルフィーモン！」

伊織「タケルさん！」

タケル「うん、いくよ！」

アンキロモン「アンキロモン！」

エンジェモン「エンジェモン！」

アンキロモン・エンジェモン「ジョグレス進化！」

シャッコウモン「シャッコウモン！」

ファントモンA「完全体になったところでこの数には、勝てまい！」

すると、ファントモン達の後ろにある、暗黒のゲートからさらに多くの暗黒デジモンが現れた。

大輔「うひゃ～、沢山でてきやがったな～。」

パイルドラモン「だが・・・俺達の」

シルフィーモン「敵じゃ・・・・」

シャッコウモン「ないギャ！」

ファントモン「「「「「ふざけんな～！」」」」」

～パイルドラモンVSファントモンA・B～

パイルドラモン「デスペラートブラスター！」
ファントモンA・B「ソウルチョッパー！」
互いの技がぶつかり合い、土煙がおきて視界を遮った。
ファントモンA「どこだ！」
パイルドラモン「今だ！エスグリーマ！」
ファントモンA・B「ぐあああ！！」
ファントモンA・Bはパイルドラモンのエスグリーマをうけ、四散した。
～シルフィーモンVSファントモンC～
ファントモンC「俺の攻撃が当たらない！？」
シルフィーモン「その程度のスピードでは私にかすりもせん！」
ファントモンC「ならば・・・いけ、暗黒デジモン達よ！」
暗黒デジモン達「「「「「オォォォ！」」」」」
シルフィーモン「くっ、こいつらが邪魔で思うように動きが取れない！？」
ファントモンC「ヒヒヒ、今だ！ソウルチョッパー！」
シルフィーモン「まさか、味方ごと！？うわぁぁぁぁ！！」

ファントモンC「ふん、跡形もないわ！ヒハハハ！」

シルフィーモン「・・・貴様だけはゆるさん！」

ファントモンC「な、なんだと！？」

シルフィーモン「デュアルソニック！」

ファントモンC「甘いわ！ソウルチョッパー！」

シルフィーモンのデュアルソニックはファントモンCのソウルチョッパーに消し去られた。

シルフィーモン「甘いのは貴様の方だ！」

ファントモンC「貴様、いつの間に？！」

シルフィーモンは一瞬の内にファントモンCの懐にはいってた。

シルフィーモン「命を軽んじる罪の重さをしれ！トップガン！」

ファントモンC「し、しまったーーー！！！」

ファントモンCはシルフィーモンの怒りのトップガンをくらい、四散した。

京「味方を囮にするなんて・・・。」

ヒカリ「ひどい・・・。」

？？？「そらそろ、消えてもらおうか？まずはそのでかい奴からだ。
」

シャッコウモン「うわぁぁぁぁ？！」

タケル・伊織「シャッコウモーーーン！！？」

Ｐｒｏｌｏｇｕｅ（ＰＡＲＴ３）（前書き）

感想が全然来ず、淋しいのでちょっとしたことでいいなで感想や要望をどしどし下さい。
要望はできるだけ取り入れていくつもりなのでよろしくお願いします！

Prologue（PART3）

シャッコウモン「ぐわぁぁぁ！？」

パイルドラモン「どうした、シャッコウモン！？」

シャッコウモン「ぐっ、突然、背後から凄まじい攻撃が？！」

？？？「ほ～う、加減したとはいえ、消滅しなかったのはほめてやろう・・・。」

大輔「誰だ、てめぇー！？」

ファントモン「あ、あなた様は？！」

パラレルモン「俺はパラレルモン・・・貴様達を封印する者だ。」

一乗寺「僕達を封印する者だって？！」

京「封印されるのは、あんたの方よ！シルフィーモン！」

シルフィーモン「トップガン！」

シルフィーモンは素早くトップガンを放った。

しかし、パラレルモンはトップガンに当たる前に姿が消えた。

シルフィーモン「消えた！？」

パラレルモン「うしろだ・・！パラレルレーザー！」

突然、シルフィーモンの背後に現れ強烈なレーザーを放った。

シルフィーモン「なっ！？がはっ！！？」

パイルドラモン「い、いつの間に！？」

シャッコウモン「アラミタマ！」

シャッコウモンはシルフィーモンの背後に現れたパラレルモンめがけ高熱の熱線を放った。

パラレルモン「無駄だ・・・。」

パラレルモンはまたも突然姿を消した。

パイルドラモン「どこだ！？」

シルフィーモン「奴の気配が感じられない・・？！」

パラレルモン「そろそろ、終わりにさせてもらう・・・。パラレルレーザー・オール・レイン！」

パラレルモンが上空に現れたと思った瞬間、大雨の如く大量のレーザーが降ってきた。

パイルドラモン・シルフィーモン・シャッコウモン「うわぁぁぁぁ！！！！」

パイルドラモン、シルフィーモン、シャッコウモンはダメージを受

けすぎ、幼年期に退化した。

大輔「チコモン！」

一乗寺「リーフモン！」

京「ポロモン！」

ヒカリ「ニャロモン！」

タケル「トコモン！」

伊織「ウパモン！」

大輔達がチコモン達によろうとしたその時・・・

パラレルモン「貴様達は異空間の牢獄に入っていろ！パラレル・オブ・プリゾン！」

全員「うわぁぁぁぁ！？」

突然、走っていた大輔達は地面に吸い込まれた。

チコモン「大輔ーーー！！！」

ウパモン「伊織達をどこにやったギャ！？」

パラレルモン「私の力で奴らを異空間の牢に閉じ込めた。」

ニャロモン「異空間の牢だと！？」

パラレルモン「そろそろ、リアルワールドの方も片が付いた頃だろ

う・・・。」

すると、突然パラレルモンの横にパラレルモンそっくりのデジモンが現れた。

メタモルモン「リアルワールドの選ばれし子供達は異空間に閉じ込めたぜ。」

パラレルモン「流石だな、メタモルモン。」

メタモルモン「当たり前だぜ。ってあんたまだパートナーデジモンを封印してなかったかよ？」

パラレルモン「あぁ、少し喋り過ぎたな。では、そろそろ・・・」

チコモン「大輔・・・！！！」

パラレルモン「さらばだ。選ばれし子供達のパートナーデジモン達よ。」

チコモン「世界を救えなかった・・・みんな、ごめん！！！」

パラレルモン「パラレル・ワールド・アシーオ！」

パラレルモンが両手を前に突き出すと、チコモン達の背後に六つの真っ黒な空間ゲートが開き、チコモン達を吸い込んだ。

メタモルモン「これで邪魔者は消したな。」

パラレルモン「あぁ、しかし・・・。」

メタモルモン「どうした？」

パラレルモン「いや、なんでもない。」

メタモルモンとパラレルモンはそのまま消えた・・・

～？？？～

志賀「ここ、どこだ？」

？？？「ここはお前の夢の世界であり、我等四聖獣の世界だ。」

真正面から声が聞こえたと同時に青い龍が現れた。

志賀「な、なんだお前は！？」

チンロンモン「我が名はチンロンモン。四聖獣の一体だ。」

志賀「チンロンモン？それって確か本宮達がいってた？」

チンロンモン「ほう、選ばれし子供の一人、本宮大輔を知っておったか。」

志賀「あぁ、あいつとは親友だからな。以前、確か・・・チビモンだったかな？そいつを見せってもらって、それからデジタルワールドであったことを教えってもらったんだ」

チンロンモン「その本宮大輔、または選ばれし子供達が倒された。」

志賀「な、なんだと！？」

チンロンモン「その時の映像を見た方が早いだろう・・・」

すると、チンロンモンが激しい光を放出しだしだ。

志賀「な、なんだ！？」

チンロンモン「安心しろ。映像を見せるだけだ。」

チンロンモンの光は空間を満たした。

志賀「うわぁぁぁぁ！？」

Ｐｒｏｌｏｇｕｅ（ＰＡＲＴ３）（後書き）

次回からはいよいよ主人公が活躍しますので乞う御期待！！

World01．三つの力！

志賀「ん、ここは？」

チンロンモン「光が丘だ、しかし映像のだが。」

志賀「映像・・、あっ太一さん達だ！」

志賀のすぐ下に、ボロボロな太一達がいた。

志賀「なんで、あんなにボロボロなんだ！？」

チンロンモン「あやつがあまりにも強すぎるのだ・・・」

志賀「あいつか・・！」

志賀は太一達の戦ってる相手を見た瞬間、体中から汗が噴き出したのを感じた。

志賀「な、なんだあいつ！？み、見ただけなのに！！？」

チンロンモン「あやつは完全体の身ながら究極体を越える力をもっている。我等、四聖獣をも越える力をな・・・」

志賀「なっ！？で、でも太一さん達は今までも強敵達を倒してきたんだろ！？今度だってきっと！」

太一達「うわぁぁぁぁ！！！」

志賀「た、太一さ・・！！」

コロモン「た、太一！！！！」

？？？「選ばれし子供達は異空間の牢にパートナーデジモン達は別世界へご招待～！」

コロモン達「みんなをかえせ！！！」

？？？「じゃあね～♪フェイク・パラレル・ワールド・アシーオ！！」

？？？が両手を前に突き出すとコロモン達の背後に不気味な空間が開きコロモン達を吸い込んだ。

コロモン達「うわぁぁぁぁ！？」

志賀「コロモーーーン！」

？？？「さてと、パラレルモンの所いくかな。」

すると、？？？は一瞬のうちに消えた。

志賀「待て！うわっ！？」

志賀が手を伸ばした瞬間、眼が開けられない位の光が起きた。

志賀「ん？さっきのは・・・」

チンロンモン「今の映像通りだ。」

志賀「そ、それじゃ、太一さん達は一体どこに・・・？」

ファンロンモン「選ばれし子供達はあやつらが創りだした異空間の牢に閉じ込められておる。」

上から声が聞こえてくると同時にチンロンモンを越える巨大な黄金の龍があらわれた。

志賀「で、でかすぎだろ！？なんだ、お前？！」

ファンロンモン「我が名はファンロンモン、四聖獣の長だ。」

志賀「じゃ、じゃあファンロンモン、太一さん達を救う方法はないのか！？」

ファンロンモン「方法はある。」

チンロンモン「そのために我等が来たのだ。」

志賀「それって、」

ファンロンモン「おぬしがあらゆる別世界に封印されたパートナーデジモン達を解放するのだ。」

志賀「でも、別世界にどうやって！？」

ファンロンモン「これを使うのだ。」

すると、ファンロンモンの体から三つの光の球が出てきた。

一つは志賀の手の平にのると、形が変わりＤ－３のようになった。

志賀「これ、大輔達がもっていたのに似てる？」

チンロンモン「それはＤ－３零式。今の選ばれし子供達のＤ－３の機能だけでなく、あらゆる機能がついている。」

ファンロンモン「そして、彼らは君のパートナーデジモンだ。」
すると、さっきの二つの光の球は片方は紫色の毛と頭のインターフェースが特徴の恐竜型デジモンに。
もう片方は背中に頑丈そうな鱗をもち、同じくインターフェースをもったデジモンになった。

志賀「俺のパートナーデジモン！？それも二人？！」

ドルモン「やっはー！俺はドルモン、よろしくな！」

リュウダモン「私はリュウダモンよろしく。」

志賀「俺は志賀健二だ。」

ファンロンモン「頼む志賀健二よ、彼らと共に選ばれし子供達のパートナーデジモン達を解放してくれないか？」

志賀「あぁ、必ずパートナーデジモン達を助け出して太一さんや大輔達も必ず助けるぜ！」

チンロンモン「たのんだぞ。Ｄ－３零式を前に突き出して、ゲートオープンと言えば別世界の扉が開く。」
志賀「分かった。ゲートオープン！」

すると零式が輝き出し白いゲートが現れた。

ファンロンモン「必ず、帰っくるのだぞ。」

志賀「当たり前だぜ。いくぞ！ドルモン、リュウダモン！」

ドルモン・リュウダモン「おう！！」

ゲートは志賀達が通った後静かに消えた。

Ｗｏｒｌｄ０１．三つの力！（後書き）

次回は最初の別世界に到着！その世界は不思議な世界だった。

Ｗｏｒｌｄ０２．魔法の世界！？

ＶＳウィッチモン！

World02．魔法の世界！　VSウィッチモン

～ウィッチェルニー～

志賀「う、うぅ～。」

ドルモン「健二～！」

リュウダモン「起きられよ、健二。」

志賀「ド、ドルモンにリュウダモン？」

ドルモン「やっと起きた～！」

リュウダモン「健二、体に異状はないか？」

志賀「あ、あぁ大丈夫だ。それより、ここはどこだ？」

リュウダモン「分からん。」

ドルモン「零式で分からないの？」

すると、志賀はポケットから零式を取り出した。

志賀「うわっ！？な、に？！」

零式を取り出した瞬間、零式からなんらかの地図が現れた。

リュウダモン「おそらく、この世界の地図だな。」

志賀「なにか書いてる・・・。現在地、ウィッチェルニー。魔法を扱うデジモンが数多く・」

リュウダモン「健二、危ない！」

ウィッチモン「マジシャンズ・サンダー！」

志賀「うわっ？！な、なんだ！？」

ドルモン「敵だ！気をつけろ！」

リュウダモン「ドルモン、やるぞ！」

ドルモン「おう！いくぜ！ダッシュメタル！」

ドルモンは必殺技のダッシュメタルを放ったがウィッチモンは軽々と避けた。

ウィッチモン「遅い！マジシャンズ・・・」

ウィッチモンはドルモンめがけ必殺技を放とうとする。

リュウダモン「遅いのは貴様だ！居合刃！」

しかし、ウィッチモンの一瞬の隙を突きリュウダモンはウィッチモンの懐に入り込み、強烈な斬撃を叩きこんだ。

ウィッチモン「い、いつの間に！？ぐわぁぁぁ！！」

志賀「お、お前ら強いな～？」

ドルモン「当たり前だぜ。」

リュウダモン「それよりもなぜ、いきなり攻撃してきた？」

ウィッチモン「なぜだと？お前達はウィザーモンの仲間じゃないのか！？」

志賀「ウィザーモン？誰だ、そいつ？」

リュウダモン「我等は、今さっきこの世界に来たのだ。」

ウィッチモン「そ、そうだったのか。それは済まなかったな。」

志賀「分かってくれればいいんだ。あっ俺は志賀健二。」

ドルモン「俺はドルモンだ。」

リュウダモン「リュウダモンと申す。」

ウィッチモン「俺はウィッチモン、それはそうとこの世界にいては危険だ。早く別の世界にいったほうがいい。」

志賀「なんでだ？」

ウィッチモン「それは・・・危ない！」

ウィザーモン「サンダークラウド！」

志賀「ま、またかよ！？」

ウィザーモン「見つけたぞ、ウィッチモン！いい加減、エレメント・ジュエリーを返せ！」

ウィッチモン「それは、こちらの台詞だ！マジシャンズ・サンダー！」

ウィザーモン「小癪な！サンダークラウド！」

ウィッチモンのマジシャンズ・サンダーとウィザーモンのサンダークラウドが激しくぶつかり合い、相殺していく。

志賀「一体何なんだよ！？」

ドルモン「あのウィザーモンが言っていたエレメント・ジュエリーっていうのがこの戦いの原因だしいな。」

リュウダモン「エレメント・ジュエリーといえばそれはそれは美しい１０個の強力な魔法の宝石の事だ。まさか、実在していたとはな。」

志賀「とりあえず、あの2人を止めよう！」

リュウダモン「あぁ、このままではどちらかが死んでしまうからな」

ドルモン「全く、手がかかる奴らだぜ。」

ダルクモン「・・・それは困りますね。」

リュウダモン「誰だ！」

志賀「後ろだ、ドルモン！」

ドルモン「ＯＫ！ダッシュメタル！」

ドルモンのダッシュメタルは敵に直撃した。

ダルクモン「その程度か？」

ドルモン「お、俺の必殺技が効かない？！」

リュウダモン「貴様は、ダルクモン！？なぜ、本来デジタルワールドを守護する天使型の貴様が！？」

志賀「リュウダモン、あいつを知ってるのか？」

リュウダモン「うむ、とにかくここは退くぞ。」

ドルモン「なっ！？逃げるのか？！」

志賀「そうだぜ、なんで逃げるんだよ！？」

リュウダモン「ダルクモンは成熟期の中でもかなりの実力をもっている！成長期の俺達じゃ勝ち目は薄い！」

ダルクモン「ほう、少しは賢い奴もいたか。」

ドルモン「成熟期がなんだってんだよ！俺が倒してやる！うおぉぉぉ！！」

志賀「ダメだ、ドルモン！」

リュウダモン「愚か者め！」

志賀の抑止をも聞かずドルモンはダルクモンに向かっていった。

ダルクモン「フフフ、身の程知らずが。我が愛剣ラ・ビュセルの餌食にしてやろう。バテーム・デ・アムール！！」

志賀「逃げろ、ドルモン！」

ドルモン（駄目だ・・かわせねぇ！！）

その瞬間、ドルモンは死を覚悟した。

しかし・・・

リュウダモン「兜返し！」

リュウダモンは背中の鎧を使って、ダルクモンの剣撃をはじいた。

ドルモン「リュウダモン！？」

ダルクモン「ほう、少しはやるな、ならば少し本気を出すか。バテーム・デ・アムール！！」

ダルクモンの剣撃が激しくなりだした。

リュウダモン「か、返しきれない・・！！う、うわぁぁぁぁ！！」

志賀・ドルモン「リュウダモン！！」

ダルクモン「これでとどめだ！バテーム・デ・・・」

ウィッチモン「マジシャンズ・サンダー！」
ウィザーモン「サンダークラウド！」

リュウダモンにとどめをさそうとしたダルクモンに2つの雷が直撃した。

ダルクモン「ぐっ、この攻撃は！？」

リュウダモンのピンチを救ったのは一体誰？

Ｗｏｒｌｄ０２．魔法の世界！　ＶＳウィッチモン（後書き）

次回、成熟期のダルクモンに為す術なしの志賀達！しかし、絶対に諦めない志賀の心が奇跡を起こす！

解き放たれた進化！
ラプタードラモンとギンリュウモン！

今、世界への扉を解き放つ！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8241q/

デジモンアドベンチャー０３～紋章の解放者～

2011年3月2日04時15分発行